

第 37 期（平成 31 年度）

品質方針・目標及び活動指針

平成 30 年 8 月 1 日

品質方針

当社は技術力と創造力の研鑽に努め、顧客の要求事項に応え社会に貢献する。

《 CMT推進工法システムで難条件の推進工事に挑戦する 》

当社は全員参加で顧客要求事項への適合、法規制等を遵守した品質マネジメントを定着させ、信頼に足る「品質」「納期」「価格」でステークホルダーに貢献できる品質マネジメント(QMS)を構築し、その有効性を継続的に改善していきます。

品質目標

- ① 三位一体(製作整備部門 設計部門 営業・総務部門)となり、コミュニケーションを充実させて情報の共有化に努める。(報連相の徹底)
- ② トラブル・不具合の発生防止・再発防止・未然防止に努め顧客満足度を高める。
- ③ 品質向上 生産性向上 納期短縮 原価意識を共有し、売上拡大と利益の確保を図る。
- ④ 推進技術の多様化に対応するマシンの改良・新技術を開発し顧客満足度を高め受注につなげる。
- ⑤ 営業視点を下水道から水道・農水・民間インフラ事業へ向け売上高を確保する。

具体的活動

- ① 部門間の報告 連絡 相談を徹底する。
 - (①-1) [長期工程表] [営業情報] [設計開発計画書] [製作関連者会議] [機械仕様書] 等の活用
- ② トラブル・クレームは原因を追究し再発防止・未然防止に努める。
 - (②-1) 各担当責任者はトラブル・クレームに即刻対応し、工事の中断を最少に留め顧客の利益を守る。
 - (②-2) トラブル・クレームは『不具合・クレーム情報シート』に記入し、その原因を明確にして恒久処置を施し再発を防止する。
 - (②-3) 発生したトラブル・クレームは『技術研修会』で全員に周知する。
 - (②-4) PDCAサイクルを展開し継続的改善を行います。「点検確認書」等
- ③ 個人のスキルアップ・多能化に努める。重要工程においては複数の協力業者を選定する。
 - (③-1) 「技術研修会」「講習会(教育機関)」「情報収集」等。
 - (③-2) 専門業務の外注により、少人数での作業効率を上げ納期短縮に努める。
- ④ 推進技術の多様化に対応できるマシンの改良・新技術の開発に努める。
 - (④-1) 難条件の施工に積極的に挑戦することでマシンの性能が向上する。
 - (④-2) 全員が熱意を持ってマシンの改良・新技術に取り組み発信する。
 - (④-3) 設計部門は現場実状を確認し今後の設計計画に反映する。
- ⑤ 役所・コンサル・民間インフラ会社等に積極的に営業展開する。また、改築・リターン工法の実績を増やす。
 - (⑤-1) 営業情報を収集し積極的に対面訪問を行う。(費用対効果の判断)
 - (⑤-2) 難条件の施工に積極的に関わり設計部門に改良・開発を提案する。

作成	審査	承認
越智	木下	田中
8/1	8/1	8/1